

連合社会福祉学研究所 博士(後期) 課程科目概要

区分	科目名	概要	担当教員
専門選択科目	社会福祉学特殊講義Ⅰ (社会福祉原論)	戦後62年の間に日本の社会福祉は著しい発展をなしとげ、人文、社会系、医系、工系の諸科学から大きな関心もたれています。しかしながら「社会福祉学研究」の実状は、そうした学際的諸科学からの疑問・批判に積極的、体系的知識を提供する状況になっていないように考えられます。そこで社会福祉をめぐる内外の理論、実践に至るあらゆる領域・分野を網羅的に的確に把握できることを目指し、日本社会福祉学会が総力をあげて15年間以上もかかって、編集された『エンサイクロペディア社会福祉学』(中央法規2007)を基盤にして、それを創造的に応用しつつ社会福祉原論を深く探究していきたく思います。しかしながら社会福祉をとりまわっている情勢は、目まぐるしく激変していく中で、調整を繰り返しつつ創造していくことになるでしょう。具体的には「21世紀社会福祉戦略」「展開基盤」「歴史的展開」「思想・理論と研究方法」「対象：施策・機能・運営」「実践方法」「利用と支援分野」「地域福祉の統合」「世界の社会福祉」。私たちはこの世紀に福祉社会、国際的には福祉世界への挑戦をして深めていかなければならないでしょう。(世界人類福祉を創造し、「人権の世紀」になるために。)	星野 政明
	社会福祉学特殊講義Ⅱ (社会福祉思想論)	現在、日本において社会福祉思想を研究するフレームとして次のようなカテゴリーが提案されている(中野伸彦「社会福祉哲学・思想研究の動向」『社会福祉の課題と研究動向』中央法規より)。 (1)「実践の根拠」(実践的行為のエトスの考察) (2)「価値や倫理の根拠」(対人援助現場の関係性の考察) (3)「福祉理念型の根拠」(社会福祉の学的パラダイムの考察) (4)「哲学・思想史との連関」(哲学・思想と福祉的事象との関連の考察) 本講義においては、院生が(1)から(4)までのカテゴリー全体を視野に入れ、各カテゴリーにおける課題を自己自身の課題として内面化しつつ考察することによって、院生自身が全体に通底する独自の思想を創出していくことを目指す。 研究方法としては、テキストのみならず広範囲にわたる文献・資料の検索・講読と、深く徹底した自己省察である。(1)では、当事者の言説に直接触れることを通じて、福祉活動の代表的なエトスを内面化して会得することを目指す。(2)では、対人援助の現場における関係性に関して、技術的に基礎づける理論ではなく、関係性そのものを質的に規定する原理(思想)を探究する。(3)では、社会福祉研究全体を体系化する試みを通覧し、学的パラダイムを支える基礎的な概念と範疇を抽出することを旨とする(存在論)。(1)から(3)までの考察に際しては常時(4)への遡源を伴うが、特に現代の社会福祉理論形成に決定的な影響を与えた古典的な宗教・哲学・倫理・自然思想に関して、十分な文献講読が求められる。	栗栖 照雄
	社会福祉学特殊講義Ⅲ (社会福祉政策論)	社会福祉にとって「政策」の形成や変遷は大きな影響を及ぼす。この講義では、社会福祉政策における政策原理を確認し、効率・最適性に代表される経済原理と、平等・公正・公平・適切性といった福祉原理とがどのように競合/調和するかについて論じ、行政・政府(公共部門)にとどまらず市民や地域社会・民間団体をも視野に含め、社会福祉政策の主体の問題について政策形成論の見地から考察する。	高橋 睦子
	社会福祉学特殊講義Ⅳ (コミュニティ・ソーシャルワーク論)	個人の能力の改善や向上といった視点だけでなく、社会を個人に適応させ、個人と社会の両者の関係性の改善を図る、という視点に立つコミュニティアプローチを展開し「地域で共に暮らす」ための理論を学び、実践を展開する。	平川 忠敏
	社会福祉学特殊講義Ⅴ (障害者福祉論)	社会福祉基礎構造改革が進展する中で、障害者福祉は、激変のさなかにある。療育問題を始め、「学校から社会へ」の課題、QOLの向上・推進、権利擁護・アドボカシー、当事者参加や自己決定、家族支援、バリアフリー、障害理解等課題は多い。そして、それぞれの課題は、ノーマライゼーション、インクルージョンの思想の展開の中での実践が求められているのである。テキストの3冊は、いずれもそれぞれの課題を追求したものである。テキストとしては必ずしも十分なものとはいえないが、多くの参考文献を参照しながら、課題に解答してもらいたい。	山口 洋史
	社会福祉学特殊講義Ⅵ (障害者リハビリテーション論)	障害者福祉の近接領域の中でも最も密接な関係があるリハビリテーションをとりあげ、両者の接点にアプローチすることにより、障害者福祉研究の促進や新たな視点について示唆を得る。 そのKeywordとして、社会リハビリテーション、地域リハビリテーション、障害者ケアマネジメント、アセスメントとインターベンションなどに着目して、福祉との接点について考究する。	藤田 和弘
	社会福祉学特殊講義Ⅶ (精神保健福祉論)	精神障害を有する人は多くの生きづらさを感じており、社会的参加を制約されている現状である。そのため、福祉の対象となり、向後の社会福祉施策の上でも重要な分野となり得る。その大きな要因の一つは疾病に起因する社会的認知の障害にある。その認知機能障害の本質が如何なるものか、その障害を改善するために、どのようなことが出来るのか、注意機能、記憶、行動障害、自己モニタリングの異常、他者の認知、異常体験と問題は複雑であり、大きい。 脳の健全な機能についてまた、精神障害(疾病)による脳機能の障害について、テキスト他を参考に勉強していただく。	鶴 紀子
	社会福祉学特殊講義Ⅷ (児童・家族福祉論)	問題をフィールドの中から見つけ出し、解決するための手段を考え、それを研究へと結びつける。本科目では、「児童福祉」「家族福祉」の領域でのソーシャルワークを実践するための研究をする。	杉原 俊二
	社会福祉学特殊講義Ⅸ (国際福祉論)	この講義では、社会福祉の問題群の多層性・複合性を、個別の社会と国際社会の動向との双方の視点から分析する。社会福祉の諸課題について、とくに貧困、社会的排除、教育、ジェンダーおよびエスニシティなどの観点から検討する。グローバル化と社会福祉の関係について、アジア諸国と欧米を中心に論ずる。その中で、比較研究についての理論的枠組みのバリエーションについても理解を深める。	高橋 睦子
	社会福祉学特殊講義Ⅹ (高齢者健康福祉論)	ヒトは加齢とともに心身の変容をきたし、時を経るに従って個の多様性が展開する。そこには、それまで個と社会との係わりのなかで辿ってきた生活歴の証しがある。今日の長命、高齢化社会を迎え、心身を含めた人の生き様を見ようとするとき、健康や福祉の概念がいかに在るべきか、その多様性の把握、そして理解をもとに熟慮する必要がある。各人の足場により、その構築は姿・形を異にするであろう。そこに新たな学問の萌し、拡がりがある。この観点から高齢者の健康とは、福祉とは何かを問い、新たな視点を得るべく学習を展開する。そこで以下の順序により、各人の研究課題に資すべく高齢期の心身について学習し、各人なりの健康福祉論を展開し、新たな視点の構築を試みる。 (1) 各人の興味ある身体課題を選択し、その加齢変化、行動の変容、障がいの発生など多面的に学習する。 (2) 身体と同様に、ヒトのこころの有り様は、その人の生活歴の証しである。心の課題はまだ不可知とはいえ、少しずつ実証的知見が提示されている。それらのうち関心の在る分野について、器質的視点を中心に学習する。 (3) (1)と(2)の学びを通じて、心身の有機的関連を論ずる。	永見 邦篤
	社会福祉学特殊講義Ⅺ (介護福祉論)	日本語の「介護」と「介護福祉」は、それぞれ異なる意味で用いられる場合がある。介護の現場では、少なからず医療と生活支援を併せ持つ内容が求められ、また介護福祉領域では、身体的、心理的、社会的な関わりが必要とされる。それぞれに異なる意味を有しているが、いずれも人間理解が必要とされる点に共通因子がある。この介護・介護福祉の本質を捉えるため、本講義では、こころと身体の関係、あるいは環境(場)と身体の間、科学的研究の実際と限界に関する内容を、科学的視点(現代医学的視点)を比較対象として、全体論を基軸とする東洋医学的視点から捉えることを試みる。そのことにより、医療、福祉、介護はもとより、カウンセリングやメンテナンスなど、非常に多義的な意味を内包しているcareの意義を再確認することを試みる。	渡邊 一平
	社会福祉学研究法特殊講義Ⅰ (質的研究)	質的研究法とは、事象の具体性に即した手法で、観察や面接によって得られたデータに基づく経験科学的なもので、非計量的なアプローチをいう。具体的には、実験的研究状況を設定しないで、観察や面接を重視し記録を作成し、主に質的データである記録に基づいて分析をするもので、記録以外の得られた資料も総合して分析する。こうしたアプローチの基礎的方法について学習する。	栗山 和広
	社会福祉学研究法特殊講義Ⅱ (量的研究)	博士課程の研究法についての講義であり、受講生は量的研究法に関する基礎的な知識は持っていると考えられ、受講生個々の研究テーマに応じた研究法について指導する。具体的には受講生と相談して決めるが、例えば、 1. 因子分析 2. 太田のエコスカナーを活用した生活支援研究 3. PIE(Persons In Environment)によるアセスメント 4. Prologによる推論プログラムのアセスメントへの応用等が考えられる。	錦織 毅夫

連合社会福祉学研究科 博士(後期) 課程科目概要

区分	科目名	概要	担当教員
総合科目	社会福祉学特殊研究Ⅰ	研究テーマに即した研究背景を確認し、研究課題の目的や方法などの基本的構成について、また、その妥当性について取り組む。	小川 芳徳
	社会福祉学特殊研究Ⅱ	研究課題に関してその研究方法(実験、測定、論文考察など)を吟味し、展開していく。	
	社会福祉学特殊研究Ⅲ	研究の目的に沿った内容・構成を確認しつつ論文執筆をおこなう。	
	社会福祉学特殊研究Ⅰ	<p>【社会福祉学特殊研究ⅠからⅢまでの全体的指導指針】 院生各自の問題意識と研究テーマに沿った指導を行う。学位論文作成に関しては、院生各自の専門研究の全体的なレベルを上げることが中心となるが、本「特殊研究」においては、専門研究に対して思想的な基礎の掘り下げと他分野への視野の拡大を目指す。したがって論文の作成に際しては、「特殊講義(社会福祉思想)」の内容に応じたモチーフを考慮することが望ましい。</p> <p>【社会福祉学特殊研究Ⅰ目標】 1) 各院生の現時点での研究内容を、総合的に再検討する。 2) 学位論文作成に向けて、研究計画と論文章立ての具体的検討に入る。 3) 研究計画に適應した研究方法を選択し、具体的な研究活動のスケジュールを立てる。 4) 論文作成のための先行研究に必要な文献・資料の検索を始める。 5) 講義単位修得への示唆を受ける。</p>	栗栖 照雄
	社会福祉学特殊研究Ⅱ	<p>【社会福祉学特殊研究Ⅱ目標】 1) 各院生の現時点での研究内容を、総合的に再点検する。 2) 学位論文作成に向けて、研究計画と論文章立ての具体的検討を重ねる。 3) これまでの研究(調査・検索・購読)内容を具体的に点検し、研究方法の継続ないしは変更を決定する。 4) 年度末のスクーリングにおける予備審査に向けて、条件を具体的に整備する。特に、査読付きジャーナルへの掲載に努力を傾ける。 5) 必要な講義単位の修得を済ませる。</p>	
	社会福祉学特殊研究Ⅲ	<p>【社会福祉学特殊研究Ⅲ目標】 1) 各院生の現時点での研究内容を、総合的に再点検する。 2) 予備審査を通過している場合は、論文完成に向けて論文内容の具体的検討を重ねる。 3) 研究(調査・検索・購読)の漏れの点検と、補充の作業を進める。 4) 副査担当者からのアドバイスを受け、論文内容を検討する。 5) 予備審査を通過していない場合は、通過要件を満たす努力をする(査読付きジャーナルへの投稿など)。 6) 博士課程修了後の研究計画について検討する。</p>	
	社会福祉学特殊研究Ⅰ	社会福祉学の諸問題について、主に、福祉社会学・福祉政策論のアプローチからの研究課題と目的を設定し、博士論文の基本的な枠組みを構築する作業に取り組む。	高橋 睦子
	社会福祉学特殊研究Ⅱ	各自の博士論文の研究計画に基づき、研究課題および研究方法に関連する先行研究文献について批判的検討を行う。	
	社会福祉学特殊研究Ⅲ	各自の博士論文の内容・構成を確認しつつ、論文執筆について助言を行う。	
	社会福祉学特殊研究Ⅰ	<p>1. 学問的に深く追求してみたい関心、興味のある研究論文、図書等を渉猟する。そして研究課題を設定する。 (このことに関しては、入学時までに関心のある分野の研究論文、図書等を渉猟し、研究したいテーマについて、ある程度の方向性を持っておくことが望ましい) 2. 研究テーマについての研究方法なり研究計画を具体的に検討する。 3. 研究方法、研究計画に従って研究を進めていく。</p> <p>特殊研究Ⅰでは、主に上記の1.2.の作業をする。</p>	高山 巖
	社会福祉学特殊研究Ⅱ	博士論文についての基本的な構想を立て、予備審査に備える。 したがって研究テーマとその具体的な研究方法、研究計画をしっかりと固め、研究計画に従って研究を進める。またそれらの成果は、必要ならば副論文等として投稿する	
	社会福祉学特殊研究Ⅲ	論文の構想、研究の進捗状況、論文執筆等にかかわる助言、指導。	
	社会福祉学特殊研究Ⅰ	<p>高齢化社会の到来で高齢化社会のかかえる問題点はこれから、益々重要となってくる。 高齢者にとって、生理的老化に加えて、種々の疾患に罹患し、障害者としての生活を余儀なくされている方も多い。 如何に病的老化を防ぎ、健康高齢者として生活をエンジョイ出来る体力、気力を維持し、充実した老後を送るかは、各個人の人生の充実度から見ても重要な課題である。 このことはひいては、医療経済面でも、国民の負担の軽減にも通じる重要なテーマであり、時代に即した最優先の課題といえよう。 また、精神障害、身体障害など社会参加に制約を受けている方々にとって、生き辛さを感じているケースもあり、その点で、精神障害者に対して、福祉面で果たすべき役割は大きい。現代では、脳の高次機能、すなわち、注意、認知、記憶、言語のメカニズムについて研究は進んでおり、その指標を用いて、障害された状態がどのような状態なのか知り、定性的に、定量的にどのように評価できるか研究することはその機能が制限された状態を改善するというリハビリテーションの見地からも重要なことである。 併せて現実に福祉の現場でどのような問題があるかを知ると共に、将来現場に還元できる研究を目指したい。</p>	鶴 紀子
	社会福祉学特殊研究Ⅱ	各自の研究計画に従い、初年度に作成した基本計画に基づいて、パイロットスタディの結果を整理して、更に本格的な調査を行なう。 結果を出し、小論文を作成する。 得られた結果の中で、次なる中心的課題を設定し、課題解決のための計画を作成する。 データ取得を行なう	
	社会福祉学特殊研究Ⅲ	2年次に取得したデータをもとに、必要なら、追加調査を行い、まとめる。 学会に発表し、学会誌に投稿する。	

連合社会福祉学研究科 博士(後期) 課程科目概要

区分	科目名	概要	担当教員
総合科目	社会福祉学特殊研究Ⅰ	研究テーマに沿い、各自の問題意識と現状の把握の為に書籍、文献を紹介し、また提示する。加えて研究の遂行に必要な方法など合わせて学習し、予備調査等を通じてその精通に努める。	永見 邦篤
	社会福祉学特殊研究Ⅱ	[Ⅰ]を土台とし、研究テーマに沿った調査・実験等を実施する。そして結果の解析、信頼度を検証し、学会での発表、学術誌への投稿へと展開すべく、準備を整える。	
	社会福祉学特殊研究Ⅲ	研究テーマに沿った結果の更なる蓄積に勤め、同時に学位論文の作成を行う。自ら得た結果や知見を熟考し、当初の研究テーマと照らしながらも新たな視点を模索する。	
	社会福祉学特殊研究Ⅰ	障害者福祉とリハビリテーションの接点にかかわるテーマ、特に①アセスメントとインターベンション、②社会リハビリテーション、③心理・教育リハビリテーション、④職業リハビリテーションなどを主たる研究テーマとする。 研究テーマを設定し、先行研究をレビューする。 研究方法を検討し、研究計画を決める。 以上と並行して研究の推進を図る。	藤田 和弘
	社会福祉学特殊研究Ⅱ	前年度にある程度進んでいる研究を更に推進する。 前期終了までに論文を仕上げ投稿し、後期2月に博士論文執筆有資格者認定、及び博士論文予備審査を受けることを目標とする。	
	社会福祉学特殊研究Ⅲ	前年度に投稿、掲載受理された論文を中核として博士論文を執筆、完成させる。	
	社会福祉学特殊研究Ⅰ	それぞれのテーマについての先行研究の再検討により、研究計画をより具体的に確かなものにしていく事が重要である。	山口 洋史
	社会福祉学特殊研究Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 研究を具体的に実施する過程での問題点を検討する。 修士論文やその継続研究も含めて、査読のある学会誌への投稿を1編ないし2編行う。 	
	社会福祉学特殊研究Ⅲ	最終段階であるので、まだデータをとる必要がある場合は、至急活力的に取り終える。 <ul style="list-style-type: none"> 多くの場合最終段階であるので、論文の構成がすじのとおりのものであり、かつ、エビデンスも筋道にあったものとして、十分であるかを検討する。 最終的に自分の問題意識や論文の仮説に対してどうであるかを吟味する。 先行研究に対して「何を新たなものとして付け加えることが出来たか」すなわち、論文のオリジナリティを確認する。 	